

桓武天皇の遷都と怨霊（後編）

前編では桓武天皇の天皇即位と奈良の平城京から長岡京への遷都のいきさつについて述べました。

ここでは長岡京を廃都にして平安京に遷都した理由と桓武と怨霊の関係を探って見たいと思います。

平安京は山城国葛野郡宇太村やましろのくにかどのぐんと言う所でした。太秦うずまさの広隆寺を建てた秦氏が開発した土地です。

葛野川（桂川）の東側で、長岡京の東北の地で大きさは長岡京と変わりません（南北5キロメートル、東西4キロメートル）。794年（延暦13年）の10月に自身が移転しました。前年の2月に遷都を決めました。

たった10年での又遷都です。理由は何でしょう。これもはっきりした記録が残っていません。後世の人の類推です。

一つは長岡京には東側に葛野川かどの（桂川）が流れており、京の南東部の一部は葛野川にかかっています。又京の中央部にも小畑川が流れていますが、この両川が豪雨で氾濫し、京の南部は甚大の被害をこうむります。この両川についてはそれまで相当の治水の対策工事をして来たのです。しかし駄目でした。

これが桓武はこの地をあきらめ廃都にした理由説です。

二つ目は前編で述べました死んだ早良さわら廃太子の怨霊おんりょうから長岡京を逃れるためと言われている説です。

事情をお話します。

延暦7年（788）に夫人藤原旅子、同8年に母親の高野新笠、同9年に皇后の乙牟漏おとむろが立て続けに亡くなり、又皇太子安殿親王あてが病で伏せがちになります。

占いによると自殺した弟の早良親王廃太子の怨霊のせい、祟りであるとの託宣です。

桓武は延暦11年に早良のために淡路に山稜を造りました。更に平安京に遷

都後の延暦19年(800)に早良親王に崇道^{すどう}天皇の称号を贈り謝しました。

このことから長岡京廃都、平安京遷都の理由とされて来ましたが、この説には反論があります。

平安京には長岡京の建物の資材がうつされている。長岡の地は遷都後寵臣が賜っている。家臣で長岡に残った人もいる。崇道天皇の追称は桓武の晩年である等をあげて平安遷都の怨霊説を否定しています。

桓武が早良親王への仕打ちに悔悟の念を抱き、怨霊をなだめる策を施したことは本当でしょうが、まあ確実に言える遷都の理由は洪水問題でしょう。

何故遷都先が平安京なのか。これもはっきりしたことは分かりません。場所は桂川(葛野川)をはさんで西側が長岡京で東側が平安京です。

平安京も水陸の交通の便は良いですが、水運は長岡京の方が良いでしょう。

平安京の西側の桂川(葛野川)、東側の鴨川も普段は水深浅く舟の運航が出来ません。

西南の淀川の港の大山崎で荷揚げ、それから平安京へは陸路です。

淀川は桂川、宇治川、木津川が合流する大河です。大山崎は大坂方面との水運の終点です。平安京も長岡京も外港として使いました。長岡京とはほぼ接しています。

江戸時代には淀川から伏見まで運河で、更に伏見からは高瀬川(運河)を造成し底の浅い高瀬舟で京へ物資が運ばれるようになりました。

桓武は平城京には戻りません。仏教勢力の排除、天武系王朝を否定し天智系王朝の再興です。

長岡京の選別と同じく平安京も選定は桓武自身が決めたと言われています。桓武は地理に明かるい人でした。(趣味の狩猟で地理をよく知っている。) まあそれでも長岡京の選定は失敗したのですが。

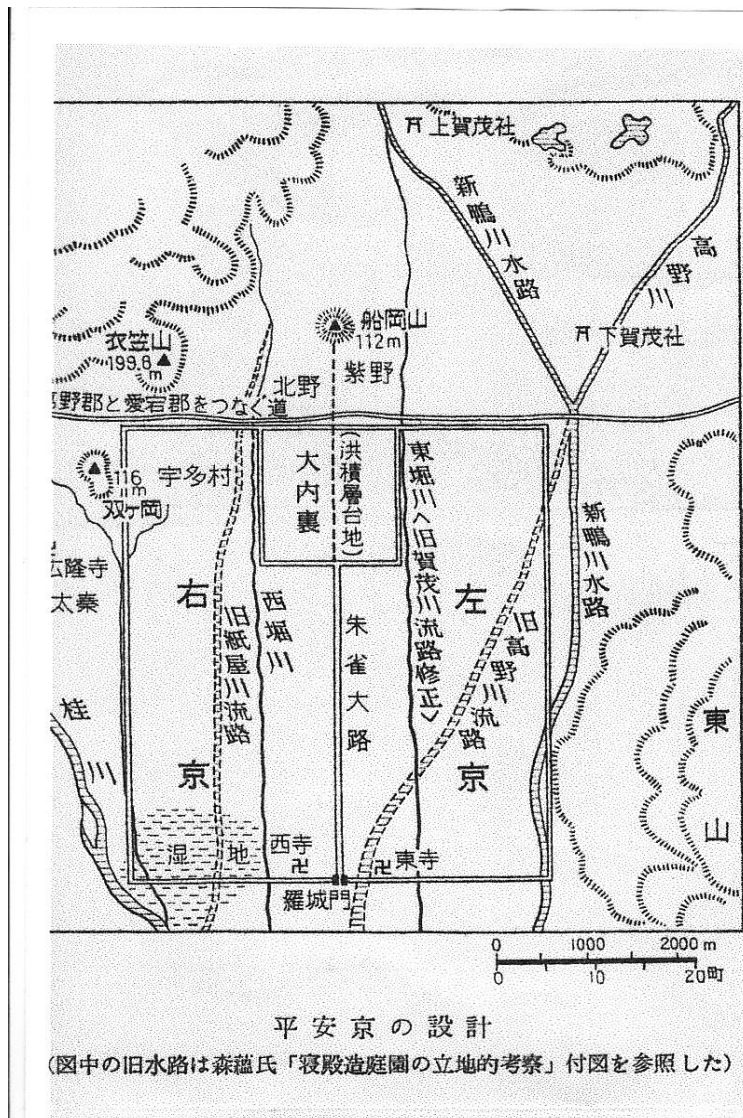
平安京の地勢を概括して見ます。京都盆地の北端です。北東から南西にかけて緩やかに低くなります。北辺と南辺のとの高低差は20メートル位です。

流水は南南西に流れ、桂川に流れ込みます。

高野川は大原に源を發し元々の流れは、都の北東方向から一条と二条の間を右けさがけ(南南西)に向け、東寺あたりから西方の桂川に向かっていました。

この流れを変えました。下賀茂神社(都の北東の角)あたりから真っすぐ南への流路にしたのです。(新水路)

以前の都を袈裟懸けの流路は埋め立て廃止にしました。



(人物叢書「桓武天皇」から転載)

鴨川は本来は北方から真っすぐ南下して大内裏の東をさらに南下して六条あたりで旧の高野川に注ぎこんでいました。当時東堀川と呼びました。現在の堀川です。

この東堀川（旧鴨川）の流水を分水しました。東堀川の流れを上賀茂あたりから東南方向に人工水路造って分水させ、都の北辺の一条大路と東辺の東京極大路交わる地点（都の北東の角、下鴨神社あたり）で高野川と合流させ都の北端から真っすぐ南下させました。新水路は都を南に出た所で西に向かい桂川に

注ぎこみます。

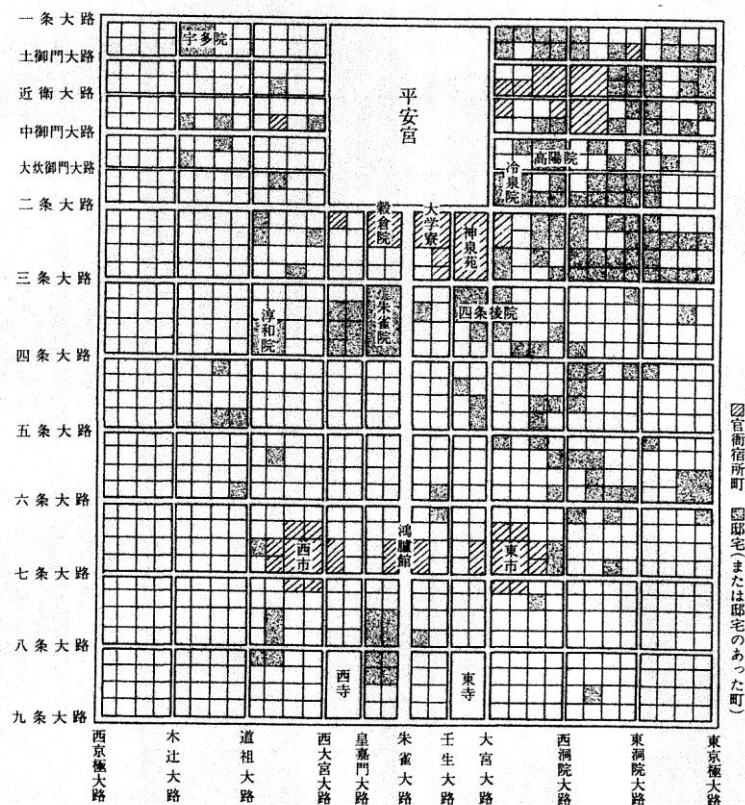
これで都を斜めに流れていた旧高野川を埋め立て流路を南下させ、堀川の水量を減らし、洪水の対策をしたのです。

現在の賀茂川が下鴨神社あたりで高野川と合流して鴨川と称している川の生い立ちです。即ち今の鴨川は人工の水路です。

外にも紙屋川等の川も都を流れていましたが、いずれも水路を北から南へ真っすぐに造成しました。

すべて洪水対策です。大変な土木工事です。

99 平安京



(日本の時代史5「平安京」より転載)

それでも桓武亡き後京は鴨川や桂川の洪水に悩まされます。100年余りで、水はけの悪い京の西半分は都でなくなり、畠、荒地に戻ってしまいました。

その代わり鴨川の東側、京の南郊の鳥羽は発展していきました。

話は変わりますが、桓武の二大事業は都の造営ともう一つは奥羽の蝦夷^{えみし}反乱の制圧です。少しふれましょう。

お父さんの光仁時代から奥羽の蝦夷の反乱が目立つようになり、中央から司令官を派遣して対応していましたが、収まりません。

桓武は大々的に対応することにし、延暦8年に4万の大軍を送って対戦しました。しかし北上川で蝦夷の族長の阿弭流為^{あてりい}のゲリラ攻撃で大敗退しました。

桓武は征討軍を再編成して延暦13年（平安遷都の年）に再攻撃させます。一進一退でありましたが、征夷副使の坂上田村麻呂の活躍で勝利し始めます。

桓武は現地の最高司令官として田村麻呂を征夷大將軍に任命して対処させます。

田村麻呂の采配でついに蝦夷の族長アテルイは降参し、まずは奥羽の地は安泰となります。しかし完全に収まったわけではありません。防備の設備（柵、城）の増強や兵士の派遣は引き続き必要です。

桓武は晩年に二大事業である平安京の造営の続行と征夷事業を止めることを宣します。膨大な経費の縮小のためです。

桓武の事業として外に遣唐使の派遣が有名です。帰ってきた最澄や空海の活躍があるのですが、活躍は桓武が亡くなった後が本格的と言えます。空海が帰って来た時はもう桓武亡くなっていましたので会えませんでした。

更に死のまじかに過去の謀反で刑に処せられた人々（配流の人、死んだ人）も恩赦にしました。

怨霊を恐れたと言われていています。特に晩年弟の早良親王の怨霊を恐れました。

無実の罪を着せたことへの悔悟もあるでしょうが、ほかに何かあるのではないかと探っている学者もいます。（母方の実家が朝鮮渡来系で、朝鮮には怨霊信仰があった影響）

これは平安時代の怨霊信仰につながっていきます。古代桓武以前は怨霊を気にしませんでした。桓武からです。

平安時代は早良親王をはじめとして管原道真等への怨霊対策（神社の建築）は枚挙にいとまがありません。

平安時代は怨霊の時代とも言われます。

しかし武士の時代になりますと、怨霊など信じません。武士は殺人、人殺しが商売です。怨霊などと言っていては商売が成り立ちません。

最後に桓武の趣味ですが、鷹狩りです。月に何回も出かけるほど好きでした。この趣味のおかげで山城国（長岡京、平安京）の地理に明るく都の候補地の選定に役立ちました。長岡は失敗でしょう。

延暦25年（806年）3月17日70歳で亡くなりました。

天皇陵は平安京の南方の柏原山稜にもうけられました。明治天皇が祭られている桃山御陵の近くです。

明治に入り、平安神宮に孝明天皇（明治天皇の前の天皇）とともに祭られています。

新天皇は予定通り安^あ殿親王＝平^{へい}城天皇です。

お父さんの光仁も普通ではなれない、更に桓武も普通ではなれない立場にありながら幸運なのか、はたまた誰かの画策かで天皇になった仁です。

桓武は天皇になった後、恩義ある老公卿たちが病没してその二世なったことも幸いし、若い彼等を側近として起用して専制政治を行うことが出来ました。

大きな事業としては、長岡京、平安京の造営と征夷事業でしょう。

晩年は怨霊に悩まされましたが専制君主、武人派天皇と称されています。

桓武時代の記録は続日本紀と日本後紀位で、それ以外の史料や解説書は平安時代後期以降の作品で創作が多く確かなことが分かりません。

長岡京遷都や平安京遷都は桓武天皇によって行われたことはもちろん史実です。しかしその理由や謀反の真相については大変あいまいな話となります。現在の通説的なところを取り出して語りました。

以上

2018年4月7日

梅 一声